

文学部 英文学科

ディプロマ・ポリシー

1. 卒業要件

専攻科目から 70 単位以上、共通科目から 20 単位以上、専攻科目、関連科目及び共通科目から 38 単位以上、合計 128 単位以上を修得し、2 に挙げる能力を身に付け、本学学則に定める在学期間を満たす者へ学士（英文学）の学位を授与する。

2. 修得する能力

- (1) 英語、英語圏の文学・文化の教育・研究を通して、論理的思考力を身に付けている。
- (2) 英語に関する語学的知識を修得し、実践的運用能力を身に付けている。
- (3) 英語圏の文学・文化・社会の在り方についての広く深い教養と専門知識を持っている。
- (4) グローバルな視野に立って知識と情報を収集伝達する技術を修得している。

3. 卒業後の進路

運輸・旅行関連、マスコミ・情報関連、金融・保険関連の各業界、並びに公務員及び公立、私立の中学校・高等学校教員への就職や、大学院への進学が期待される。

カリキュラム・ポリシー

1. 体系（構成）

- (1) 英文学科の授業科目は、専攻科目・関連科目・共通科目から構成されている。
 - ①専攻科目では、専門分野を深く学ぶ。
 - ②関連科目では、専門分野の視野を広げるために、専門分野に関連した科目を学ぶ。
 - ③共通科目では、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を育てるために、キリスト教学、人文科学、社会科学、自然科学、スポーツ科学及び外国語を学ぶ。
- (2) 社会の要請や学生のニーズに応じて、英語圏の文学・文化関係をはじめ様々なジャンルの科目を提供している。
- (3) 1・2 年次は、リーディングスキル、スピーキングスキル、ライティングスキル、CALL 演習等のスキル系科目により、英語の実践的な能力の育成に力を注ぐ。
- (4) 1 年次は、基礎演習と英米文学・文化基礎講読により、英語で書かれたテキストを正確に読み、それについて自らの考えをまとめ、レポートやプレゼンテーションによって発表する訓練を行う。同時に、英米文学・文化概説により、専門分野の入門的知識を得る。

- (5) 2・3年次は、英米文学・文化講読、イギリス文学史、アメリカ文学史、イギリス文化論、アメリカ文化論、英米文学・文化研究等により、専門分野に関する知識を深める。
- (6) 「文学・翻訳系」、「キャリアイングリッシュ系」、「グローバル文化系」の3つの履修モデルに提示された科目を履修することによって、英語の総合的な力を高めながら、文学と文化と社会に関する問題意識を養う。
- (7) 3年次必修の演習Ⅰ、4年次必修の演習Ⅱでは、主として英語圏の文学・文化に関する研究テーマを設定した少人数のセミナー形式の授業により、専門的な研究を行う。

2. 特色

- (1) 基礎科目、演習科目においてレポート作成、プレゼンテーションの方法等の指導を行う。
- (2) 少人数制の語学教育を行う。
- (3) 豊かな感性と想像力を育てる英語圏の文学・文化科目を開講する。
- (4) グローバルな知識と情報を身に付ける学際的関連科目を開講する。
- (5) 多様な課題に対して、学生が自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる教育を行う。

3. 具体的な教育内容

〔基礎科目〕

「聴く」「話す」「読む」「書く」の4つのスキルを習得し、英語の実践的な能力の向上をはかるとともに、レポート作成やプレゼンテーションの方法等のアカデミックスキルを学ぶ。英語圏の文学作品をはじめ様々なテキストを読み解くための基礎を身に付けることで、3年次以降の専門領域での学習活動が行えるように準備する。

〔英米文学・文化科目〕

英語圏の文学・文化を学ぶことで、深く広い教養を身に付け、豊かな感性と想像力を養う。更に、多様化する世界状況に対応するために、グローバリズム、批評理論、翻訳、映画、フェミニズムについての専門的な知識を学ぶ。

〔キャリアイングリッシュ科目〕

留学や就職活動で求められる資格試験のための学習を行い、英語を生かした職業で求められる基本的な知識の習得及び英語力の向上をはかる。

〔英語学・英語教育科目〕

英語の語学的知識を学び、英語と文化や社会との関係を認識する能力を養う。更に、英語の特性を科学的に分析し、その研究成果を教育に活かす能力を育成する。

アドミッション・ポリシー

1. 求める学生像

英文学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実

施方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた者を求める。

- (1) 大学での学修に必要な基礎学力を有している者。
- (2) 英文学科のカリキュラムが提供する講義に積極的に参加できる者。
- (3) 英語の習得に高い関心を持つ者。
- (4) 英語圏の文学・文化、社会について知的好奇心を持つ者。

2. 選抜方法

英文学科では、前項で述べた資質を有する者を、以下の方法によって選抜する。

- (1) 一般選抜（一般入試、英語 4 技能利用型一般入試、大学入試センター試験利用入試（前期・後期）、一般・センター併用型入試）

高等学校での学修の達成度をみるとともに、大学での学修に必要な基礎学力を有しているかを評価する。また、一般入試では英語の配点比率を高くし、更に基準点を設けることにより、英文学科において専門知識を修得するための英語力を有しているかどうかも含めて判定する。

- (2) 特別選抜（総合型選抜入試、指定校推薦入試、併設高校からの推薦入試、国際バカロレア A0 入試）

総合型選抜入試では、小論文と面接を課し、面接においてはグループディスカッションも含むものとして、出願時の学修計画書等を含めて、受験者の知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協調性を総合的に判定する。

推薦入試では、高等学校において一定の基準の学力を修得したと認められる生徒の推薦を求めるが、英文学科においては、更に英語の評定平均値や資格・検定試験のスコアなどを出願資格に加えることにより、特に英語に興味を持ち、その能力を維持発展させる意欲のある者を評価する。受験者には、小論文と面接を課しており、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。

国際バカロレア A0 入試では、受験者に面接を課し、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。

- (3) その他の選抜（外国人入試、帰国生入試）

多様な学びの背景を持つ学生を受け入れるために、外国人及び帰国生のための入試を実施する。一定の語学力を有することを確認したうえで、外国人入試では日本語による作文と面接、帰国生入試では日本語による小論文と面接を課すことにより、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。